

## VII 宮崎公立大学の概要

### 1 学部・学科と入学定員

学部・学科 人文学部・国際文化学科  
入学定員 200名

### 2 大学の概要

#### (1) 沿革

本学は、宮崎公立大学事務組合が設置主体となり、平成5年4月に開学しました。その後、平成19年4月には、法人化に伴い、宮崎公立大学事務組合が設立する「公立大学法人 宮崎公立大学」が大学の設置主体となりました。

また、平成23年3月末をもって宮崎公立大学事務組合は解散し、同年4月1日からは、宮崎市が「公立大学法人 宮崎公立大学」の設立団体となりました。

なお、平成22年3月には、文部科学省が認める第三者評価機関である（財）大学基準協会による認証評価を受け、「適合」判定をいただきました。

#### (2) 建学の理念・目的

本学は、広く知識を授け、深く専門の学術を教授研究し、高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学として生涯学習の振興、産業経済の発展および文化の向上に貢献することを建学の理念・目的としています。

#### (3) 人材養成目的・教育目標

##### ① どのような人材を養成するのか

- 1) 人間教育によるグローバル・リーダー
- 2) 総合力を備えた専門家

グローバル・リーダーとは、異文化を深く理解し、異なる民族とも協調でき、他者と自由で対等なコミュニケーションをする能力をもち、国際関係における不平等や脅威に対してグローバルな連帯によって立ち向かう人です。

##### ② 3つの教育目標

- 1) 英語とICT（情報通信技術）の高度な運用能力の養成
- 2) 比較文化、コミュニケーション、国際関係についての専門知識を総合的に身につけて、さまざまな角度から事象や情報をとらえることができる能力の養成
- 3) 総合的に習得した専門的な知識と技能を社会生活において表現し活用できる能力の養成

#### (4) 教育課程の特色

本学では、上に述べた人材養成と教育目標を実現するために、次のような特色を持つ教育課程（カリキュラム）を組んでいます。

##### 【体系的で総合的な教育】

本学の教育課程は、『共通課程』（学生全員が学ぶ共通科目群）と『専門課程』（学生が主体的に選択して学ぶ科目群）から編成されており、4年間一貫して体系的で総合的な教育を行います。

- ①『共通課程』には、「語学（英語）教育」「コンピュータ」「スポーツ・健康科学」「基礎講義」「キャリア教育」「講義演習」「演習（ゼミ）」に関連する科目が配置されています。大学でより有効に学ぶために不可欠の基礎的な知識と技能を身につけます。また、自分の問題意識のきっかけをつかんだり、目的意識を高めたりしながら、主体的に

学ぶ基本的な姿勢を修得します。

②『専門課程』は、「5 専門課程科目群（通称 5 コース）」「演習科目群」「総合政策科目群」「キャリア教育科目群」「外国語科目群」で編成されています。

「5 専門課程科目群（通称 5 コース）」には、「英語」「情報・基礎科学」「比較文化」「コミュニケーション」「国際関係」に関連する科目が体系的に配置されています。これらの5つの領域に配置された科目を学生が主体的に選択し横断的に学習することによって、広い教養と深い専門知識に裏打ちされた人間性豊かな総合力を修得します。

「演習科目群」は「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」から編成されています。「共通課程」の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では大学での学習に不可欠な基礎的な知識と技術を学び、「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」ではより専門的な研究方法と内容を学びます。問題探求能力を向上させ、学年を超えた幅広いコミュニケーションを図る場です。

「総合政策科目群」では、リベラル・アーツの一翼を担う法律・行政・経済などの分野の基本的なものの考え方や問題への取り組み方を学びます。

「キャリア教育科目群」では、自分の能力や個性をよく理解し、卒業後の自分にふさわしい職業および進路を主体的に選択するために必要な知識や技能を身につけるとともに、インターンシップやボランティアなどの科目も学習します。

「外国語科目群」では、韓国語、中国語、フランス語を学習します。

#### 【時代に対応できる広い教養と判断力および豊かな人間性の育成】

グローバル化の時代には、適切な判断力と行動力を備え、広い教養と深い専門的知識に裏打ちされた人間性が必要です。

本学では、英語と ICT（情報通信技術）の高度な運用能力を養成し、また5 専門課程科目群の横断的学習による総合的な専門性を養成することによって、豊かな人間性を育成します。

#### 【外国語教育と情報教育の充実】

国際社会の動きを洞察するために必要な最新の知識や情報を獲得するための手段として、また、コミュニケーションの道具として、英語、韓国語、中国語を徹底的に学習します。

さらに、高度情報化社会に積極的に参加するために、情報の的確な判断力と分析力を理論および実践の両面から養い、情報処理の基本的な技術を習得します。

### (5) 教育方法の特色

本学では、教育効果を高めるために、詳細な講義計画書（シラバス）を作成し、次のような特色ある教育方法に基づいて教育が行われます。

#### 【少人数教育】

語学教育、情報教育、演習（「基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」）、講義演習（少人数で行う授業形態）などを中心に多くの分野で少人数教育による双方向的な授業が行われます。特に、英語とコンピュータに関連する科目では、学生自身の関心と習熟度に応じてクラス編成が行われ、徹底した早期集中型の学習を行います。

#### 【 Semester制】

Semester制とは、1 年を2 学期に分け、単位の取得を学期単位で行う制度です。広範囲な科目履修ができるとともに、留学生や帰国生徒の受け入れと本学からの海外留学も円滑に行えます。

#### 【ゼミ形式】

1 年次から4 年次まで、全員ゼミを必須科目として履修します。1 年前期から2 年前期は

「基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で大学での学習に必要な基本的な知識と技術を身につけます。2年後期から4年後期の「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、各自の問題関心や目的意識に沿って、研究方法の基本を学習し、卒業論文を作成します。

ゼミは少人数で行うので、教師と学生がコミュニケーションを図りながら、問題探求能力を身につけることを目指して、主体的で細やかな学習ができます。

#### 【実習】

多様な変化とニーズを生み出している現代社会のさまざまな問題を分析し、それらの問題解決に有効な方策を提示するとともに、それを実行し、自己を適切に表現する力を養うために「異文化実習」「ボランティア論」「インターンシップ論」などの実習科目を学習します。

### (6) 教育研究環境の特色

本学では、学際的で総合的な学習に取り組めるように、次のような教育研究環境が整備されています。

#### 【図書情報システム】

学内諸施設に最新の機器が配備され、図書検索システムや学内情報ネットワークは教員と学生の教育や研究に活用され、国内外の学術情報機関との連携が図られています。

#### 【語学教育・学習環境】

コンピュータ支援による語学学習（CALL：Computer-Aided Language Learning）システムを活用した語学教育（英語、韓国語、中国語、フランス語など）の充実に努めています。特に英語においては、学生一人ひとりが学内ネットワークを利用しながら、主体的に学習できる環境が整備されています。

#### 【国際交流】

本学は、オールド・ドミニオン大学（米国）、蘇州大学（中国）、蔚山大学校（韓国）、ワイカト大学（ニュージーランド）およびバンクーバーアイランド大学（カナダ）と学術交流協定を、蔚山科学大学校（韓国）と学生交流に関する了解覚書を締結し、教育、文化等の分野で国際交流を推進しています。

蘇州大学・蔚山大学校・蔚山科学大学校と本学の間では、それぞれ毎年1～4名、約半年～1年間の派遣留学生の交換を行っています。また、ワイカト大学へは、毎年1名10ヶ月間の留学生を派遣しており、ワイカト大学からも、1～2名約5ヶ月間の留学生を受け入れています。そして、大学へは、毎年1名4ヶ月間の留学生を派遣しています。これらの派遣留学生には学費免除や単位互換などが認められています。さらに、蘇州大学、蔚山大学校および蔚山科学大学校とは、相互に短期研修を実施し、ワイカト大学およびバンクーバーアイランド大学へは短期研修生を派遣しています。

学内には、アメリカ人教員2名、韓国人教員1名の専任教員がいます。また、国際的な学術会議や行事が開催でき、4ヶ国語の同時通訳ができる設備を備えた講堂が設置されています。

#### 【凌雲会館】

凌雲会館は、開学10周年記念事業の一環として建設されたもので、平成17年11月1日オープンしました。施設は2階建てで、1階部分は「学生支援センター」として、学生と教員が自由に語らうことができるラウンジのほか、学生の生活・活動を有機的・有効的に支援する就職活動支援室、後援会・同窓会事務室、ボランティア支援室、学友会、自習コーナーなどが設置されています。

また、2階部分には地域の生活や活動に関わるさまざまな課題等を調査研究し、その結果を地域に還元し、その発展や活性化に寄与する「地域研究センター」が設置され、「市民との協働研究」を中心とした研究が行える環境が整備されています。